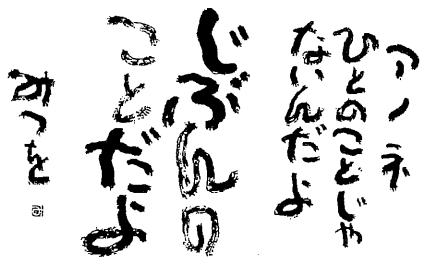


さくら第461号

平成30年5月

## さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7: TEL51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

## 『初めて習う時のきもちを忘れずに』

新しい学年、新しい仲間たちと新しい教室で過ごし始めてひと月が経ちました。小学校、中学校、高校そして大学と学ぶ中身は大きく違っていても、楽しいことがある反面、どうやって勉強すればいいのか、ほかの人達とどのように話し対応すればいいのか困り悩むことがあるかも知れませんが一人だけで決めずに誰かにそっと聞いてもらおうと気持ちが楽になりますよ。案ずるより楽なことがいくつもあります

ところで、そろばん塾での練習は基本的には毎週3回で1時間ちょっとですが、検定試験や競技大会などがあるときはしばらく長引くこともあります

練習するなかで大事なことはできない問題はまず3回はやってみることです。同じ問題だと面倒くさいと思うのかイヤな顔をする人がいます。でも、初めは理解力できないことも2回、3回とやっているとなんか分かってくるのです。根気よくあきらめずに何度でも続けることです。

学校支援そろばんボランティア授業で今年もあちこちの小学校へでかけ、3年生や4年生とそろばん学習をしているなかで、よく話すことがあります。

それは、ちがう問題を3つするよりも、同じ問題を続けて3回するほうがよくわかります、できるようになると言います。1回目は少し分かったかな、2回目では何とかできるかな、3回目には自分一人のできるからと笑顔になります

計算ルールがわかればあとは数字がちがうだけなので、自分でできるようになります。

塾での練習中に新しい計算方法を覚える時には私の机に来てします。自分の席に戻るとさっきできたのに『分かりません』とまたやって来る人がいます。分かったのと出きるようになるのはちがいます。だから、同じ問題を重ねてしていくうちに、途中で『分かった、思いだした、出きると思う』と席に戻る人がいます。指導を受ける時と、席に戻って計算するのでは緊張感や集中力が違うのですね。

検定試験は加減算だけの10級や、2桁×1桁のかけ算がある9級から受験するようにしています。これは、受ける人にとっては初めての経験となるのでとても緊張します。1級を受けるのと同じような気持ちになることでしょう。

ふだんの練習と違い、受験すると決めたならば合格することが最大限の目標ですから自分の苦手な種目やいろいろな計算方法をしっかりマスターし、良い点数を取られるよう努力せねばなりません。試験を受けることによって得る力はふだんの練習の5倍も6倍もの力となります。

競技大会も同じような効果が身につきます。出ても優勝どころか入賞すらできそうにないから出るのがイヤだ、という人もいます、競技大会だから順番はつきませんが、大切なことはいかにして自分の力をアップさせるか、そのためにどうするのが良いかを判断し頑張ることです。いろいろな場でチャレンジする気持ちを持ち続けて下さい。

ふだんの練習においていかに本番での気持ちをもって頑張るかです。練習中にできないことは本番で発揮することはまず無理です。

読み上げ算練習中に、間違った、できなかったと言って直ぐ止める人がいます。出来ないから練習するので、何も恥ずかしいことではなく、できないからと直ぐリセットする、すぐアキラメルほうが恥ずかしいと思います。

アキラメナイ、根気よくやりつづける気持ちがやがてよい結果をもたらしてくれます。あと一っ歩のガンバリです。